

平成 28 年度 第 2 回磐田市立図書館協議会会議録

- | | |
|-------|--|
| 1 日 時 | 平成 29 年 2 月 8 日（水） 午後 3 時から午後 4 時 40 分まで |
| 2 場 所 | 磐田市立豊田図書館 2 階会議室 |
| 3 出席者 | 委員：青島公悦、川倉悦子、鈴木正善、平野富美子、
山中光枝、松野正比呂、原田緑、寺田美津子（以上敬称略）
（事務局等）
村松啓至教育長、秋野雅彦教育部長
中央図書館：伊藤八重子館長、伊藤篤和館長補佐、伊東直久主幹
山本和可主任
福田図書館：大津直久館長 竜洋図書館：高尾純男館長
豊田図書館：永田幸義館長 豊岡図書館：石川純一館長
学校教育課：袴田美穂指導主事 |
| 4 傍聴人 | 0 人 |

内 容 以下のとおり

議題（1）（仮称）子ども図書館基本構想について

（事務局）『経過と概要』

6 月 1 日に開催いたしました第 1 回の図書館協議会におきまして、概要についてはご説明したとおり豊田図書館を改修して子育て相談機能を併せ持つ（仮称）子ども図書館の設置の準備を進めております。今年度につきましては、関連部署と連携して基本構想の策定業務を実施してまいりました。これまでの経過と内容について、中央図書館主幹と豊田図書館館長より詳細についてご説明いたします。

それでは、資料に沿って説明をさせていただきます。（仮称）子ども図書館設置事業の事業計画と進捗状況の資料から進めさせていただきます。まず、この事業の目的でございますが、こちらは、子どもと保護者のための情報書類を充実させ、親子が共に学び、楽しみ、成長していくことを助け、癒しと安らぎを与えられる図書館としていくこと。これに加えて、子育て相談に応ずる専門職員を配置し、保護者が抱える悩みや心配事の軽減を目指すものでございます。続いて概要でございますが、この新しい施設の設置に向けた大きな柱として、次の三点がございます。一点目は子育て相談窓口と専門職員を配置する。二点目は子どもの読書活動の拠点とするとともに、青少年から大人まで読まれる実用書籍も厳選して配置する。三点目として現有施設を活用するため、内装と外構の見直しを行うとともに、老朽化した空調設備の更新を行うといったものでございます。続きまして、年次計画でございます。平成 28 年度につきましては、基本構想の策定。平成 29 年度につきましては、設計及び改修工事を進めてまいりたいと考えております。平成 30 年度につきましては準備期間を一定期間とらせていただいた後、供用開始、リニューアルオープンとさせていただきたいという計画を持っております。続きまして、今年度進めてまいりました基本構想策定の経過でございます。まず、一番目、構想策定業務委託事業者についてでございます。これは、図書館や幼稚園・保育園など、こういった乳幼児などの利用する施設の設計に精通した事業者を選定しまして、基本構

想をともに策定するために進めてまいりましたものでございます。28年4月から事業選定の方法の検討を進めてまいりまして、公募型プロポーザル方式を採用して、業者選定を進めてまいりました。8月には委託業者を決定し、9月に委託契約を締結し、委託期間は今月末までとなっております。委託した事業者につきましては、株式会社都市環境設計東京事務所、事業所の所在地は東京都渋谷区となっております。続きまして、この新しい施設の設置に関連しました市民の意見の反映についてでございます。番として、まず市民懇話会でございます。こちらは、この(仮称)子ども図書館の設置に向けた目的や概要、設備や提供サービスなどを様々な点についてご意見をお伺いするために図書館協議会委員から、そして地域の代表者から、子育て関連団体の代表者から、こちらで構成する市民懇話会を設置させていただきました。選出委員の構成につきましては、別紙委員名簿の8名の皆様をお願いいたしました。続きまして、開催日と議題につきましては、第1回目は10月18日、第2回目は12月13日、第3回目につきましては昨日、計3回を通じまして、それぞれの委員さんから非常に多くのご意見を頂戴いたしました。次に地元や学校、利用者からのご意見につきましては、ここに記載してございますように、それぞれの場所を活用しながら、ご意見をいただく、あるいはアンケートを取らせていただくようなことを進めてまいりました。こちらは概要につきましては、豊田図書館長よりご説明申し上げます。

まず、図書館利用者への説明ということで、パネルを作り、図書館の開架室の一角に机を出して、基本構想について、皆様のアドバイスやご意見をいただきました。11月8日から12月8日までの1ヶ月間で49名のご意見をいただきました。男性が11名、女性が38名でございます。その結果としましては、賛成が34名で、ほぼ7割でございます。ご意見としては、本当に早く作っていただきたい、子育て世代にはありがたい施設なので、なるべく早く作っていただきたい、中高校生のエリアも充実してほしい、親も安心して楽しめる、子どもと一緒に楽しめる、そういった書架配置を考えていただきたい、それから、相談エリアも。相談エリアにつきましては、子育て相談も今後行っていくと投げ掛けをしましたので、それは是非お願いしたいということです。遊び場・おもちゃコーナー・飲食コーナー・子供用の洋式トイレ・授乳室等々の具体的な提案もございました。そして、条件付きで賛成といった方が9名で、およそ2割でした。この条件というのが、子ども図書館となると子どもだけというのはダメで、共存できるような図書館にしてもらいたい、一般書の蔵書数もなるべく多く配置してもらいたい、そういったことが主な希望でございました。訂正で10名の方が条件付きで賛成でした。割合は2割と変わりありません。そして、反対が5名、ほぼ10%、1割でございました。これは、もう今のままの図書館が一番いいということです。それから他の図書館に行くのに、なかなか足がないということで困るということです。また中央図書館が一番大きいので、そちらに子ども図書館を併設したらどうか、というご意見もございました。結果的には条件付きで、ほぼ9割の皆様が賛成をしていただきました。こういったご意見をいただき、意を強くして計画を今後、前に進めていきたいと思っております。しかしながら、10%の1割の方のお気持ちをしっかり受け止めながら、その代替案とか、そういった方たちへの説明とか、今後行っていかなければいけないと思っております。そして、市内の高校へのアンケート調査では、高校生の意見として主な意見を申し上げます

と、インターネット・ワイファイ環境の充実が欲しい、個人学習とかグループ学習ができる席がたくさん欲しい、自由に飲食できる場所が欲しい、ゆっくりくつろげて本が読める場所が欲しい、といったものが上位にございました。それから、豊田中学・豊田南中学、近校としまして城山中学の司書教諭の先生方との意見交換を2回程行いました。その中で先生方のご意見を紹介いたしますと、こういった図書館は県内でも非常に珍しいので、本当に中高生のYA世代も取り込んで是非実現してもらいたい、といった強いご意見もございました。それからYAコーナーというのは一般と別に離す必要もなく、一般の皆さんと一緒に重なっている図書が多いといったアドバイスもいただきました。一緒にしたらどうかということです。飲食スペースは先生方も是非子どものために作ってもらいたい、マンガ本も良質なマンガ本というものも、これからの時代いいのではないかと、そんなご意見をいただきました。それから中学生の意見としましては、さっきの高校生とほぼ重なるようなところもありますが、グループ学習・個人学習の場所、ワイファイ環境、外での読書のためのベンチ、YAが大人と別、他の子ども・小さい子供達とは別にしてもらいたい、という意見がございました。その他にマンガ本も是非置いてもらいたい。それから、自治会連合会にも何度か1月とか前年の夏とか11月にも、お邪魔しています。いい事業ではないか、後押ししていただけるといった前向きなご意見を自治会連合会や豊田の自治会より意見を頂いております。

続けて図面関係について、ご説明いたします。図書館サービスです。こちらは(仮称)子ども図書館を運営する上で基本的なサービスの考え方について簡単ではございますが、説明を記載したものになります。図書館サービスの考え方としましては、図書館資料を子どもにシフトした蔵書構成し、子供の成長にあわせて資料選択ができる配架計画を行っていきます。サービス対象は幼児から青少年・子どもに付き添う親世代を中心として選書するというようなことを考えております。また、大きなポイントとしましては、子育て支援、子育て相談が融合したような運営を目指しておりまして、一体的なサービス、子育て支援サービスが提供できるような空間づくりに努めてまいりたいというように考えております。従来の図書館の慣行とは若干異なる点としましては、静寂というものに対する考え方を若干緩やかにさせていただきたいということとともに、一部のエリアでは飲食も可能としていきたいというように考えております。選書の方針については記載のような状況になっております。職員の体制は、特に児童書に精通した司書を手厚く配置をした職員配置体制としていきたいというように考えております。資料の下段につきましては、この(仮称)子ども図書館の中で展開していきたい子育て支援サービスについて簡単な説明になりますが記載をしてあります。サービスの考え方としては、iプラザにございます子育て支援課が軸となりまして、さまざまな悩み事、相談事を気軽にさせていただけるような場所を作っていくということでございます。相談を受ける体制としましては、保健師、保育コンシェルジュ・ソーシャルワーカー・ハローワークの業務のサポートといったような専門職を配置していきたいというように考えております。

次に計画の比較でございます。この豊田図書館を改修していくということで、幾つかのゾーニングといったものを検討させていただきました。その中でこちら、大きく3案を基にしながら検討を進めてまいりまして、この中から現状、右の方に赤い文字で記載をしてござい

ますが、標準的な案ではありますが、デメリット等を検討してA案を計画案のベースにしていきたいとそんなふうに進めております。また、メリット・デメリット等については持ち帰りの上、ご覧いただけたらと思います。

次の現状施設の課題でございます。こちらは現在の豊田図書館の現状の図面でございます。図面の中に箱型に記載しておりますものが現在豊田図書館に配置されている書架、本棚になります。あと、サービスデスクのカウンターやソファー類についても現状のものが記載してあります。図面の周りにそれぞれ、いろんな場所にコメントが記載してございますが、現状の豊田図書館で課題となっているものの指摘が、こちらにしてある状況となっております。この現状課題を踏まえた上で改修を進めていきたいということで、次の計画案の検討A案になります。こちらが先ほど、3案で作らせていただいた1案のA案でございます。この中では一番大きなポイントとしては現在の展示室も有効に活用していきたいということで、しゅぺいラウンジという名称が今、仮に付けさせていただいておりますが、こちらもお客様が利用できそうな設えを考えておまして、また、現在レファレンス室とAVコーナーになっている場所がこちらでいうグローイングルームになります。こちらに主に一般書籍・YAなどの図書資料を2万冊程度、収容を検討していきたいと考えているところでございます。1階の一番大きな現在「こどものま」と書いてございますが、この部分が絵本あるいは児童書とこういったものを中心とした児童書籍のエリアでございます。こちらの家具類についても、お子さん自身、あるいはお子さん連れのご家族が楽しんでゆっくりと過ごしていただけるような書架の配置を目指してまいりたいと考えております。詳細につきましては、また後ほど、現地を見ながら説明させていただきたいと思っております。最後に外構計画の課題と方針でございます。こちらは豊田図書館の主に建物の外周りで、現状使いがっての悪い、不具合が生じているのではなかろうかというものの課題を認識しながら、こちらで改修を併せて進めていきたいところでございます。大きなポイントといたしましては、皆様も今日お通りになられたかもしれませんが、入口東側になります。水流れがございまして、それによりまして非常に通路としては狭い、1m弱しかないような部分がございます。こちらを広くとっていきたいということでございますとか、あと、こちらから入ってきた場合に今、現在、スロープがございませぬ。15センチほど段差がありまして、ベビーカー、あるいは車イスなどでお越しになるお客様が直接こちらからは入って来られないような作りになっておりますので、こういった進入路をまずは改善をしていきたいということ、南側から西側にかけては植栽が現状ありますが、こちらを図書館から一体的に利用できるガーデンテラスと申しましょうか、季節のいい時には本を外でご覧いただけるような芝生の庭を設けてみたり、デッキテラスを設けてみたり、というようなことを今考えて進めているところでございます。

(委員)『(仮称)子ども図書館基本構想策定市民懇話会の報告』(その1)

子ども図書館基本構想策定市民懇話会に昨年の第1回の協議会の山中委員と二人出向して、皆さんと一緒に考えてこいというふうに言われたものですから、先ほど報告がありましたように昨日まで入れて3回に渡って懇話会で協議会委員としての職責を果たすべく、いろんな意見を述べさせていただいてきました。その懇話会のメンバーを見ますと、名簿にありますように8人の委員で構成されておりました。その所属等の項目を皆さん、目を通していただ

くとわかりますように、今回の子ども図書館の設立の意図というか理念というものが、この人たちの意見を聞き、今までの所属とか経歴からいくと、子育て支援、つまり次代の子供達を作るのにどういうふうな図書館が必要か、ということ協議しなさいと、してほしいと、いうふうに私どもも受け取りました。そして、いみじくも私が最年長だったので、懇話会の座長をせよということと同時に山中委員にも副座長として手助けしていただきながら、しかし懇話会ですので、何かをとりまとめて、こういうふうにしたらどうだと案を作る場ではございません。市の提示する、当局が提示してきました案に対して、私たち市民はこう考えるというような意見の交換の場、というふうに私は理解をして座長を務めさせていただき、本当にあっちにいたり、こっちにいたりというような運営でしたけども、しかし流石、委員の方の見識からいきますと、直ぐに子ども図書館の理念を理解して自分が培ってきたいろんな知見を述べていただき、先ほど、説明がありましたように示されたA・B・C案の検討に直ちに入り、ゾーニングの中で、0歳児から中高校生、18までぐらいの子どもが対象の図書館だよ、ということが理解できて、そこにどういうふうな図を引けば、磐田の次代を担う子ども達に、そして、それを育てる父や母、おじいちゃん、おばあちゃんまでを含めた人たちがどのように有効利用できるか、ということをお皆さんと忌憚のない意見を話し合ってきた結果、昨日に会議で最終的にA案とC案が示されたわけですが、一番シンプルに一番貢献できる図はA案であろうということをお皆さん8人の委員で了解の基に今日の協議会に提案されているというふうにご理解願いたいと思います。その中で、図書館ですので、この図面の中で一番やはり議論になったのは計画案の検討のA案のちょうど書架の中央にある「こどもシアター」、ここの機能についての議論が圧倒的な立場を占めました。ということは今、図書館で行っている子ども向けのいろいろな事業が、ここの場所で催されるというふうな説明です。こどもシアターですので、今行われている読み聞かせであったり、影絵であったり、指人形だとか、いろいろな事業がここの場で、約50人程の子ども達が収容できて、楽しめる場所であるというふうな説明がございました。それと同時に、これからの子ども達を育てるのに若いお父さんやお母さん、最近は世帯が二世帯・三世帯の家庭が少なくなってきて、本当に働き盛りの若いお母さん、お父さんの世帯がどのようにして子どもを育てていっていいかということをお、この子ども図書館の中でも相談、気軽に相談できる場所を設置したいと、これから子ども図書館の二つの機能を有するというので、右下の約4分の1のところ、相談コーナー、相談室、受付等、そういう場所でお先ほど説明がありましたようにソーシャルワーカーを始め、保育士さんや保健師さんを常駐させたり、月のうち曜日を決めて来ていただいたり、お母さんやお父さんのお相談を気軽に話しかけてもらえる、そういう場所に作りたいということで、先ほど、教育長さんの挨拶にもありましたように、これからの本当に次代を担う子ども達を育てるお母さんの悩み、お父さんの悩みをしっかりと聞ける場所を、気軽に聞ける場所を、さあ何か相談ありませんか、相談してくださいというようなのではなくて、ふっとそこに来たら、そういう気軽な言葉で、ふっと何気なく、どんなことでも、最近食事が進まないけど、なんだいねえ、どうかいねえ、何でもいいんですよね、そして、そういうお母さんやお父さんがいっぱい集まる場所にしたいと、だから、先ほどの報告もありましたように静かに学問をしたり、勉強をしたりする場所だけではなくて、これから少しは賑やか、

シアターですから、小さいお子さんたちの鳴き声や喚き声・遊び声や、そういうこともあっちこちで聞ける、聞かれるようなそういう場所になる。ある意味では広場的な要素も持つのではないかなというようには私は思いました。そんなこんなで初めて今日は委員の方は目にするかとも思いますけど、そういうことで、この案を懇話会では大方了承したものですから、是非、皆さんのご意見をもう一度ぶつけ合って、意見を出しあって、いい子ども図書館ができるようにしたいなというふうに思っております。それで、副座長を務めていただいた山中さんにも、私もリードしていただいて、とてもいい案・ご意見を持っておられます。懇話会をリードしていただきましたので、補足説明をよろしく申し上げます。

(委員)『(仮称)子ども図書館基本構想策定市民懇話会の報告』(その2)

最初はこの懇話会に疑問、頭の上に??? (はてな)のマークがいっぱい付いた状態で参加させていただいたんです。支援センターというものがたくさんありながら、それでも、なおかつ、図書館機能と子育て支援施設を融合させる必要がどこにあるのだろうかという、図書館大好き人間ですので、そこから、ちょっと私は入ったんですけども、懇話会委員の中に素敵なお母さんたちがたくさんいて、「支援センターで聞けばいいんじゃない」と振ったらば、「支援センターにも行けないお母さんっているんです」と生の声が聞けたのです。そこはもう目から鱗で、支援センター側の職員をしていた方もいましたが、後から目から鱗だったねと話をしました。孤独な場合は本当に一人でいて悶々としている。支援センターに行けば、人の和があり、それから、どっちかという、要らぬお節介を焼かれるという言葉はちょっと、私がそう受け取ったのはそういうことですけど、それとか、月齢が近い子がいると這った、立った、歩いたということで比較をしてしまう。そこで辛くなるとか、いろんなことがあるのよ、と言われた時に、孤独な子育てというのは、人任せの子育てをしてきた者にとっては、ちょっと目から鱗でありました。まあ、そうなのか、そのときに図書館だったら、図書館に行くということで、敷居が高くない、そこで相談してもらえたら、とても素晴らしいことではないかと言うことをおっしゃった委員さんがいて、なんかなるほどと言うことで、私らが若い頃にはということが、どうしても出てしまうのですけども、支援センターもよく月に一度か二度行かせてもらいますが、「私ら若い頃にはこんなことはなかったね」とおばあちゃん連中が集まるとつい言うてしまうんですけど、でも私たちが若い頃とは、もっと違う子育ての悩み、世代間の交流があるようでないということ、そこが払拭される場所となるんだったら、とてもいいことではないかと、3回目までは、ちょっとでもねと思ったんですけど、このサービスの内容のところ、相談サービスコーナーと支援体制のところ、すべてが網羅されていて、こういうことは広報に載せるものではないと思うのです。広報して、「こういう人は来てくださいね」ということだと絶対敷居が高くなってしまふ。「あそこに行く人は相談することがある人だ」となるとことになってはいけないので、そうではなくて、「誰でも来てね」子どもにとって、とっても素敵などこなのよ、ということ、これを前に押し出せば、そこに孤独なお母さんがやってきたら、そこで、いろんなことが解消されるという場所になるのではないかなと思って、これはやっぱりすごく素敵なことだな、これを最初に言うてくださった市長さんですか、やはり今の子育ての大変さを随分いろんなことを聞かれていますので、ここにお話に来たんだなということ、とても素晴らしいことだと思って、

懇話会に参加させてもらって私のかなり固い頭もずいぶん柔らかくなったような気がします。「私らんの若いときはね」は絶対に言わないようにしようと思うようになりました。今日は一冊本をね。これは寺田委員から教えてもらって、「今日私はなんにもしなかった」というお母さんが呟くんですよね。これは、ニュージーランドでしたっけ。

(委員)ニュージーランドの子育て支援の施設の壁に書かれた詩がネットでなんか拡散したらしいですね。それを見た日本人の方が、伊藤ヒロミさんという詩人がいて、その方にちょっと日本語に訳してよとって、それが本になって出て、とても私、0歳児の読み聞かせの時に、これを最後にお母さんたちに読んであげたら、ちょっとほろっとしたり、シーンとなったりして、すごくいい雰囲気になれたものだから、いい本だなと思って、よかったらと思って、ご紹介しました。

(委員)それを寺田さんから伺って、私も月に一回支援センターに行って、お母さんたちに子ども達に読むんですけど、でも、いつもお母さんたちに一言、直近のお話をするよとって、少しグレードの高い本とか、でも、これを読んだ時に、一番前にいた人が涙がぼろぼろ出てたんですね。要するに私オムツが溜まっているし、窓ガラスは次の雨が来るまで、あつというほど汚れているわ、昨日の食べ残しもあるわ、でもね、でも、あなた、この子を抱きしめたじゃない、ということなんです。私、何回も何回も読みましたが、その時その時で、本当にすごく簡単な文章で書いてあるんですけど、これを支援センターのお母さんが喜んで聞いてくれたので、置いておきました。今も、そうすると、ときどき、これを読み返して、何かうるっとしたり、ほっとしたりして帰っていくよ、と支援センターの指導員さんがおっしゃります。だから、本当に人に言えないようなこと、私何もできてないとか、たいした親じゃないとか思っている人たちの、そんなことないんだよ、言ってあげれる施設になるんだとしたら、どんなボランティアの養成講座をやって、いろんなことに手を出そうとしているおばちゃん達だから、子どもシアターのすごいのできるの、そこを毎日何か市がやっていくのが職員の手が足りないというのだったら、我々ボランティアがシアターを運営するようにお手伝いさせていただいていこうかなと思えるような場所だと思いました。「磐田で子育てするとお得ですよ」と言えるような発信ができるような、そういう場になるのではないかと考えています。でも建物は、たぶん予算の関係もあり、完璧なものとは思いません。思わないという申し訳ないけれども、それは、いろんな人の意見があると思いますが、中にいる人の心で魂が吹き込められると思うので、とてもいい計画になると思います。ですので、オープンが楽しみです。我々ボランティア、子どものシアターを使わせて思おうとおばあさん連中は何を读もうか、オープンまでに一生懸命勉強をして爪を磨いておこうと思っています。爪を磨くとは、ちょっと酷い言い方ですけど、そんなふうに思いました。本当に懇話会に参加させていただいてありがとうございました。

(事務局)『現場説明』

それでは、私が先頭で並んでいただきます。今のところ、このA案でここがこう変わっていくという説明をさせていただきます。今は開架がAV視聴覚資料や雑誌も含めて、約9万冊あります。閉架と言って後ろの倉庫が6万5千ほどありますが、閉架は協議の中では変更がありません。開架と展示室を見たいと思いますので、よろしく願います。それでは図

面をお持ちいただいでよろしくお願ひします。これを見ながら現場を見ていただくと、問題点とかご意見も鮮明になると思ひます。ご覧になった後、また、こちらに戻ってきます。お荷物等は置いていって結構だと思ひます。

1 階の開架室等で現場説明

(事務局)『補足説明』

只今はありがとうございます。それでは補足の説明をさせていただきます。2階は今のところ、大きな改修は考えておりませんが、学習室、ガラスのドアのところですが、夏は中学・高校生の学習で毎日オープンしています。それに加え、普段は子育てのグループ、それからPTAのグループにどんどん使っていただこうと解放していきます。AVホールがありますが、ここは結構な利用要望があるので、今のところ、このまま使わせていただきたいと思っております。それから2階の丸いソファがラウンドしているところですが、そのところにテーブルを置いて2階でも、例えば勉強しに来たお子さん達、中学・高校生がそこでもご飯が食べられるようにしていきたいと考えております。

(事務局)『今後の予定』

今後の流れについてですが、今月の22日の定例教育委員会におきまして、基本構想につきましての中間報告をさせていただきたいと思っております。3月の末には、基本構想の策定業務を完了させまして、4月以降に公表していく予定となっております。そして、この基本構想を基に平成29年度に設計と改修工事を進めていく予定です。リニューアルオープンの時期でございますが、30年度の春から夏にかけてオープン出来ればというふうに考えております。以上でございます。

< 質疑・意見 >

本当にいろいろと考えていただいているなと思ひました。

飲食というのが少し心配。小学生の給食だって、食べると何だか知らないけど、床に食べ物が落ちている。水道にも汚れが。そのところのルール決めが必要。まだ始まってみないと、分からないところがある。基本持ち込みとなるので、お弁当を食べていいという感じですよ。そこが気になりました。

子ども図書館と最初聞いた時に、一度だけ行った上野のこども図書館を覗いたことがあって、そんなのをイメージしていた。子育て支援センターで働いていたことがあり、初めはこの子ども図書館の設置に山中委員同様に頭の上に??? (はてな) のマークがあった。支援センターに行けない、本当にそんな人たちがたくさんいる。私が支援センターにいる時に辛い事件がありました。子どもさんが死んでしまったという。どこかでかわれたらうれしかったなという、その時思ったことがあったので、本当にたくさんの集客、楽しいことをしたり、いろんな相談業務があったり、常駐してくださる専門家がたくさんいるというのも安心できる材料です。

実は1年前ぐらいから、こういう話があったので、今年、磐田ではなくて他のところを幾つか視察も見学もさせてもらった。上野は違う感じ。私が参考になったところは富山。それ

から、図書館ではないが豊橋。児童館があって、そこも相談コーナーがあった。相談とか様子を聞いてみた。相談に来る人を分類してみたいな話になる。こういう発達に心配な人は来てくださいね、こっちきてくださいというような、それはないよなと感じた。富山の場合は、図書館が指定管理で、子育て支援センターが直営なので、これも違うなと思ったが、相談コーナーは相談コーナーの部屋に行く通路側におもちゃがあって、子どもがおもちゃで遊びながら、お母さんがちょっと相談みたいな形で窓口で相談している。それで必要があれば、すうっと相談コーナーへ入っていく。相談しているところを人にあんまり見られない。そういう工夫をされていた。これから一番相談が非常に重要になると思う。近くに親がいるところがいいが、今はそうではない。社会で協力するのは非常に難しい。相談コーナーが気軽に、ちょっと相談できると非常にいい。聞く・話すから始まるので、読み聞かせというのは、すごく小さいときには重要だと思う。そういう意味では図書コーナーと相談コーナーがうまく繋がっているという今回の構想がうまくいくといいなと思っています。

行政の人に言いたいことは、やった後のフォローが大切だと思うので、設計して作ってしまったら、それで終わりではなくて、その後に、また皆のいろんな人の意見を聞いて少しずつでも改良していただけたら、そういう柔軟性を持った進め方をしていただきたい。

懇話会に出た二人の力強い応援が凄いな、充実した懇話会になったのだなと思いました。今、説明をずっとしていただいて、館長さんがすごい夢を持っていらっしゃるなということも伝わってきて、仕事をワクワクしながら夢を持ってやるということが、それが皆のところに浸透していくと思う。そういう姿があれば、とてもよい図書館が子どもの図書館ができると思いました。

アンケートを公表に向け、こうだったから、このように進めますと説得を持つためにペーパーで起こした方がよい。アンケートというのは最低100人ぐらいが必要だと言われているので、補充をして皆さんのご意見を集約したという形で公表に向かった方がよい。

今一番弱い赤ちゃんのところがすごく充実する。乳幼児から小学生ぐらいまでは手厚く出来ていくけれども、中学生・高校生のヤングアダルトのところが日本全国的にも弱い。中高生の人たちの集客するような何か働きがあればいいと思う。中学生や高校生がそういう子育ても一緒に図書館でやっているということも目にするのがとてもいい教育になる。

ストレートに相談デスクに行ける方は無いと思う。迷い迷いしながら、それこそ、何回か図書館に行きながら、ここは相談をしてくれるんだけど、どうなっているのかなと思いつつ、うろうろする。司書の方がこういう本を読むといいですよ、どうですかと薦めてくれるとか、それから、子育て支援の方がいて、何かちょっとお話を聞きましょうか、と声を掛けてくれるとか、そういう両方が、その人をキャッチして、相談室に連れて行って、何かこう本を紹介したりという、そのところがうまくいかないと、この機能がうまく発揮されないかなと思う。人の配置をすごく手厚くすると言ってくさっているから、それは本当に大事なことだなと思う。優秀な人材がいっぱいいると思うので、是非、そこをお願いし、より機能が高まるようお願いしたい。

(事務局)『事業説明』

今、いろいろと豊田図書館の館長を中心に専門の司書とソフト事業をどのように展開していったらよいか、考えておりますので、少し、それについて具体的にお話しします。

昨日の市民懇話会の際にも、この今の考え方をご紹介いたしましたが、まず、幼稚園・保育園それから小中学校との連携・高校との連携は、市内で豊田図書館が中心になってやっていくというお話をさせていただきました。管内の司書教諭の皆さんたちと何回か懇談をして、「もっと一緒にやりましょう」「こういうふうにやりましょう」と言っていると思います。今、原田委員がおっしゃたように、仕掛けとしても中学生・高校生にいろいろポップを作ってもらったり、一緒に子育てに入ってきてもらって、読み聞かせをやってもらったりとか、そういった仕掛けをしていきたいと思っております。ブックトークやビブリオバトルも中学・高校の児童・生徒さんに豊田図書館で行っていただきます。大学や専門学校も市内にありますので、その皆さんにも豊田図書館で、勉強してもらい、書籍も当然ありますし、実際に子どもたちと触れ合えます。それからシアターを使って、いろいろと練習にも使っていただければと思っております。あとYAですね。おすすめ本なんかも、今、ちょうど、ロビーを見ていただくと、豊田中学の生徒さんが、おすすめ本のコーナーを作っております。そういうのをもっとやっていきたいなと思っております。その他に、やはりシアターを使った、出来ればですが、毎日何かイベントが行われている、土日はボランティアさんがいろんなことをやっている、そういった名物になるようにしていきたいと思っております。あと、講座や読書会を行ったり、読み聞かせのボランティア養成講座とか、その事後のステップアップ講座とか行い、そのフォローを、ずっとやっていかないといけないと思っております。中央図書館で行われている『茶の間読書』も豊田図書館で事業展開する。茶の間の本は中央図書館で1万冊くらい所蔵がありますが、部屋を作って先生方に選書に来てもらう。選んでもらったものは配送する。小学校に届ける。そういったことも考えています。その他、いろいろとあれもやりたい、これもやりたいという思いなのですが、オープンの時に全部できるわけではありませんので、だんだんと思っております。また皆さんのご協力をよろしく申し上げます。

< 質疑・意見 >

実際は建物というよりは中にいる人が一番大事と思っている。

去年、ブックスタートの見学をした。せっかく図書館員がブックスタートの絵本を紹介しているのにお母さんたちの関心が食べ物の方に移っている。ここができればブックスタートはブックスタートでという形で独立してやっていただけた方が効果があると思う。

一番の心配は、子育て支援ということで、いろんなお母さんの悩みを聞くということと、本というのが繋がっていかないとというのが一番怖いなと思う。お母さんはいろんなことで悩んでいる。来ているお母さんにも、ちょっと、こんな本を読んでもたらと、紹介できるような流れができるというか、それができる人が図書館員にいたらいいし、私たちボランティアもお手伝いをしていけたらいいなと思っている。

自分で本が読めるようになったら、親もほったらかしで、勝手に読め、みたいになってしまふことで読書離れになりやすいので、そこを上手く繋げて、幼年文学、児童文学、そし

てひいては大人の本に流れていくような、そういうアドバイスができる人材というのを、いい具合に育てていただきたいし、職員の方も研修、自己研鑽していただきたい。読み聞かせてよく私が相談を受けるのは、高学年や中学生に何を讀んだらいいかわからないと相談を受けることが結構多い。そういうことにも対応できるような仕組みがあったらいいと思っている。

中央で何回かやったビブリオバトル。読んでいる本がアニメから触発された本とか、ビジュアル系の方から入っているものが多い。純文学とはいかないまでも、本当にこの時期に読んでほしい本というものに出会っていないのではないかと感じる。そういうことをアドバイスできる人とか、子ども図書館ができれば読書サークルみたいなものを作って、大人も中学生や高校生も入って、気軽に本の話ができるような、そんな会ができれば、ここから発信できたらいいなと思っている。

飲食のこと、なかなか、ちょっといろいろ最初はあるかもしれないが、できればああいうスペースがあるということは、いいなと思っています。

禁止事項がある図書館というのはすごく辛い。今オリンピックを期にサインの問題が話題となっている。この間、田原図書館に行った時には、何か禁止事項が書いてなかったような気がする。でも、禁止事項が書いてなくても、すごく穏やかな空間だった。禁止事項というのは結構トゲトゲしちゃうと思う。例えば、「ゴミ散らかさないでね」ではなくて、そういうことがサインでできたらいいし、2階で、もしご飯を食べていいのだったら、ここでご飯を食べてもいいんだと分かるようなイラストを使うとか、そうすると、すごい柔らかい空間になると思う。文字で書いてあるといけないし、小さい子は文字が読めないから、結局マナー違反してしまう。小さい子でも分かることだったら、いいんじゃないかと思う。イオンとかに行くとトイレに「綺麗に使っていただいて、ありがとう」と書いてある。あれは上手いなと思う。ああいうふうに言われると汚せないよと思ってしまう。肯定的なメッセージの方がいいのかもしれない。

いかに選書がすばらしいか、そこで、いかに惹き付けることができるかが図書館の腕の見せどころではないでしょうか。

0歳児から17・8歳の子ども関係者がいろんな事業で集まってくる。2年や3年かかるかもわからないが、いろんな団体やサークルやかかわった人たちの力が磐田方式で子ども図書館を運営する母体を作りだしていくということを行政当局の人たちに頭の中に入れていただき、将来的には地域の人たちが子ども図書館を運営していく力になるんだというものを是非目指してほしい。

ここ(豊田図書館)にある本で置けなくなった本は、どういうふうな形で処理されますか。

(事務局)『質疑回答』

1冊しかないものは中央図書館に移管して貸出させていただきます。それから、今、いろんなところにお声を掛けています。大学とか学校とかに、全集などはどうですか、と声掛けをしています。また、住民の皆さん、市民の皆さんにリサイクル市で提供したりするように考えております。最後、もうボロボロのものは、もうどうしようもないものは廃棄させていただきます。

システムとしては、ここにはない本でも、今のように予約をすれば、相互貸借みたいな形で借りることができますか。

(事務局)『質疑回答』

豊田の子ども図書館で受取ができますので、他から取り寄せることになります。

(教育長)ながふじ学府の一体校が今度できます。豊田中と北部小が一緒になります。そこで、その時に図書館を地域の方に開放するという可能性もあるので、例えば、こちらのコラボレーションで、その豊田図書館の本を分けていただいて、地域の方が閲覧できるようにする。そういう図書も、可能性としてあります。まだ、基本設計とか、という段階ではないので、これから学校作りの中で行っていきます。

磐田市立子ども図書館って、ちょっと固いねということで、ネーミング変えようよ、考えてみようよ、ということが懇話会でも出ました。是非、委員の中で、もし、こんな名前がいいよというものがありましたら、事務局の方に出していただきたい。私も七つほど考えてきました。先ほど、提出いたしました、是非皆さんも考えていただいて、皆が来なくなるようなネーミングをつけてやってください。よろしくお願いします。

(会長)『決議』

今回の議事の(仮称)子ども図書館基本構想、これについて、子ども磐田市立図書館協議会といたしましては、今日ご説明をいただいた内容、あるいは皆様からのご意見の内容に基づいて、これを方向性としてご承認をいただくということとさせていただきますが、よろしいでしょうか。

(全委員)[異議なし]

(会長)前回一致でご承認いただきました。ありがとうございました。

(事務局)ありがとうございました。基本構想の完成品が出来上がりましたら、委員の皆様にご送付させていただきます。ありがとうございました。

連絡事項について

(事務局)

それでは、若干、事務連絡の方をさせていただきます。

1点目ですが、先ほどお配りしました資料です。修正のありました事業報告ですが、お時間の関係もございますので、お帰りになってご覧ください。

2点目ですが、磐田市立図書館協議会委員の来年度の公募の件でございますが、2月15日の広報いわや図書館ホームページなりに掲載してまいりますので、委員さんもお承知をお願いします。以上の2点が事務連絡です。

本日は、皆様方のご協力により若干時間がすぎましたが、進行できました。

以上をもちまして、第2回磐田市立図書館協議会を閉会いたします。

ありがとうございました。